

2019 年度第 2 学期始業式式辞

おはようございます。生徒の皆さんの元気な顔を見ることができて、大変うれしく思います。今年の夏休みはどうでしたか？思い出に残っていることはありますか？

今日は、「夏休みを振り返って」、「2 学期に向けて」そして「創立者 堀越克明先生について」の話をします。

1 学期の終業式の際に、「夏休みに向けて心がけるべきこと、期待したいこと」として、規則正しい生活習慣とともに宿題はじめ学習を継続すること、やるべきことは早めに計画的に進めること、常に文武両道、両立を念頭に自分自身を鍛え上げること、学校祭の準備の活躍を期待していること、そして読書を勧めること、などをお話ししました。一つでも二つでも実践できたのならば、私は嬉しく思います。特に読書、一冊でも手に取って読破しましたか。皆さんの若い感性を揺さぶるような一冊の本との出会い、繰り返し読みたくなるような一冊の本との出会いがあることを願っています。また、1 学期終業式に参加できなかった 26 名のイートンサマーカレッジの参加生徒の皆さん、得難い体験はきっと皆さんの大きな刺激になったことと思います。語学研修、異文化理解、他校の生徒たちとの交流など、学んだすべてを今後活かしてください。さて、6 年生の皆さんは「勝負の夏」、どうでしたか。計画通りに進まなかったという人もいることと思います。「勝負の夏」と言いましたが、実は勝負、本番はまだまだ先です。「焦らず、恐れず、怠らず」。弱気にならずに前を見て進んでいきましょう。

今日から 2 学期が始まります。切り替えは大丈夫でしょうか。穎明館生全員に向けて、いつも先生方が強調していることは、授業を大切にすること、授業への集中です。2 学期前半は学校行事で落ち着かない日々が続きますが、そういう時期こそ、皆さん一人ひとりの、またクラスや学年としての姿勢が問われ、集中力が試されます。学校行事を言い訳にせず、切り替え、けじめをしっかりとつけて臨んでください。

ところで、先日の 8 月 22 日から EMK 未来サポート、未来館が正式にオープンしました。今、穎明館は EMK 未来プロジェクトという学校改革を進めていますが、その大きな柱の一つです。原則全員登録の 1 年生、2 年生をはじめ、3 年

生以上の希望者の皆さんも自主的、計画的に学ぶ環境は整いました。あとは、皆さんの実行・実践あるのみです。やはり部活動との両立が課題だと思います。成果を期待しています。自分はどうも活用できないなど、心配・不安な点があったら先生方や未来サポートのスタッフに相談してください。

さて、穎明館生の当面の意識は、学校祭にあることと思います。生徒の手による、主体的な学校行事、文化祭・体育祭は穎明館の伝統です。今年度も大いに期待しています。これからが準備も大詰めを迎えるわけですが、おそらく準備の過程では意見の違いなどで対立することや、それを乗り越えて和解するという経験、また日頃、気づかなかった仲間のよいところを発見することなどもあると思います。こういった人間関係をつくるという経験こそが、皆さんがこれから生きていくうえで大切なものになります。また、「One for all, All for one」（一人はみんなのために、みんなは一人のために）という言葉があります。一人ひとりが集団のためにもっともよいことを考え提案する、決まったことには従う、大変そうな人には力を貸すなど、準備活動を通じて、集団への参画意識、リーダーシップや協力し合う姿勢も育ててほしいと思います。さらに準備活動の中で、自分にはこういう力があつたのか、こういうことに興味があつたのか、という新しい自分の発見も期待したいところです。自分では気づかない隠れた面が、新たな経験や挑戦によってわかることもあります。学校祭、学校行事が、皆さん自身の能力や適性を探し、発揮する機会になればうれしく思います。こういったことを胸に刻んで準備を進めてください。祭りということでは、2020 東京オリンピック・パラリンピックまで1年を切りました。日本をあげて「おもてなし」の心をもって、諸外国の方々を迎える準備、努力が続けられています。本校の学校行事、とくに文化祭には多くのお客様が来校されます。日本の伝統でもある「おもてなし」の心をもって歓迎し、穎明館のこと、穎明館のよさを知っていただく機会にもしましょう。よろしくお祈りします。

最後に、今日は、本校の創立者である堀越克明先生について、お話しします。生徒の皆さん、私立学校で一番大切にしているものは何かわかりますか。建学の精神、創立者がどういう思いで学校を創ったか、その教育理念です。私は校長として改めて学びなおす必要性を感じて、この夏休み、堀越克明先生の講話集など、生前に残していただいたお言葉をじっくりと読み返しました。今日はその中から 1985 年（昭和 60 年）穎明館高等学校（穎明館は高校から開校しました）第

1 回の入学式の堀越克明初代校長先生の式辞を抜粋して紹介します。

「まず皆さんが忘れてならないのは、慈愛をもって育ててくださったご両親、今までご指導された先生方をはじめ、直接、間接ご好意を寄せていただいた多くの方々のおかげで、今日の皆さんがあるということです。

さて、私の祖父、堀越修一郎先生は、明治 10 年『穎才新誌』という少年投書雑誌を始められ、約 20 年間、全国の青少年たちの応募漢詩文を紙上添削し、大きな啓蒙的役割を果たされました。その『穎才新誌』の「穎」が他ならぬ穎明館の「穎」なのです。「穎」に始まる校名の意味を、どうか皆さんは明記してほしいと思います。

次に校歌の「聖地美し」についていえば、本校付近は鎌倉への往還の道であり、眼前の高尾山は都内で最も美しい緑にめぐまれた地で、その薬王院には参詣者がたえません。さらに大正天皇の多摩御陵はこの地に近く、まことに日本の歴史にとっては、極めて尊い聖地とってよいでしょう。

ロンドンの西へ 40 km、ウインザー城のある町のテムズ河畔にイートン校があります。この 500 年以上の輝かしい歴史と伝統を持った学校は、多年あこがれのモデルスクールでした。奇しくも、ここ多摩の地は皇居より西へ 40 km、すばらしい緑の環境にめぐまれています。われわれは世俗に染まらぬこの地を聖なる道場と考えたい。

きびしい入試を経て、皆さんは本校を選び、われわれも皆さんを選び、ともに無からの出発をすることになりました。どうか、さわやかに、スマートに、清新の気あふれる学校生活を送ってほしいと思います。

まもなく 21 世紀です。この 21 世紀には、どんな風が吹くだろうかなどと考えたりしてはだめです。すばらしい 21 世紀をどうやって創りだそうかと考えねばなりません。

何でも、できれば日本一、世界一をめざす。さいわいに、すばらしい施設、めぐまれた環境、一級の先生を与えられ、生徒もまた一級の生徒たれと願うのです。ともども各人の人生が豊かに展開されるよう修業を始めようではありませんか。」

今から 34 年前の開校 1 年目の創立者、初代校長の堀越克明先生のお言葉で

す。穎明館生の皆さん、どうですか。穎明館が高邁な理想とともに誕生したことがわかりますね。「素晴らしい21世紀をどうつくりだそうか。何でもできれば日本一、世界一をめざす。ともども各人の人生が豊かに展開されるよう修業を始めよう」……穎明館では生徒、先生方ともにいつの時代もこの高邁な理想をもって努力しなければならない。学校としての初心を胸に刻まねばならない。

皆さんにはこれからも折に触れ、創立者のお言葉やお考えを紹介していきたいと思えます。ぜひ穎明館生として、自分自身の日常や学校生活を省みる指針にしてください。

「夏休みを振り返って」、「2学期に向けて」そして「創立者 堀越克明先生について」の話をしました。まだまだ暑い毎日が続きそうです。2学期も健康管理に十分注意し、充実した学校生活を送りましょう。

以上、令和元年度2学期始業式の式辞といたします。